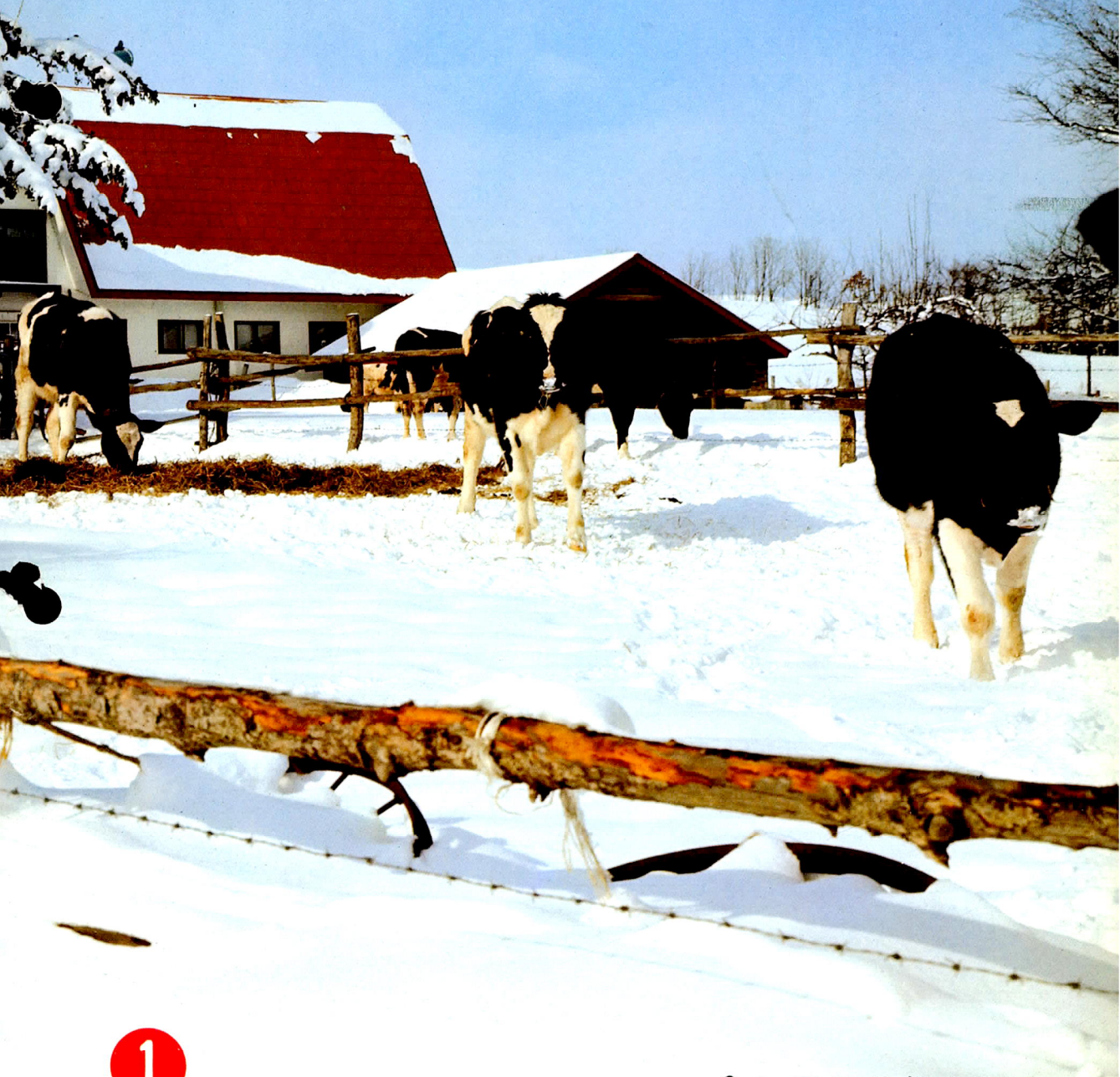


第28卷・第1号

昭和28年5月15日第三種郵便物認可

昭和55年1月1日（毎月1回1日発行）

牧草と園藝



1

雪印種苗株式會社

明けましておめでとう御座います。



新春にあたり、「牧草と園芸」の読者の皆様様の萬福を壽ぎ、本年も御健勝にて益々御発展なされることを心から御祈りいたし、併せて雪印種苗にも相変らぬ御愛顧・御引立を賜りますよう御願ひ申し上げます。

さて、日本の農業は今や厳しい情勢下におかれています。農産物こそは日本人の生命を支えるものであり、変転、悪化する世界の情勢を思うとき、国内における農産物の自給率を高めることが、これからの日本農業に課せられた使命となりましょう。

今、一部の農産物の過剰に悩んでおり、生産調整——即ち『消費に見合う生産』が論議され、これが農産物生産者価格の抑制となり、生産意欲の低下や作付作物選択上の悩みとなっています。勿論一時的には生産調整も必要でしょうが、将来を考えるならば、むしろもっと積極的な考えを持ちたいものです。即ち、『消費を促進する生産』を工夫しては如何でしょうか。

消費を促進する!! それには消費する人々の要求に応えることが必要であり、そのためには農産物の質や味の向上、更には消費者の財布にあわせるためのコストダウンも条件となって来ます。質や味がよくなり、値段も適正になれば、他の食品や輸入品とも太刀打ちが出来ていわゆる競争力を生むことになる訳です。

勿論、このために損をするようでは駄目であり、その工夫こそが1980年代農業における活路となりましょう。その工夫とは、全国民の理解と協力を得ながら、地力培養、適地適作、優良品種や新技術の導入と作物にそそぐ深い理解と愛情——即ち、古くから言い古されている農業の基本を忠実に実行して生産性を高めることでありましょう。

我が社は、過去30年間に亘って、種苗・飼料を通じて、この農業の基本を確立するためのお手伝いを続けて参り、本年も御期待に応える優良種苗・飼料の安定供給に努めて参ります。どうぞ御期待下さい。

昭和55年元旦

取締役社長

中野富雄